

令和4年度

第五小学校

学校評価シート

<学校経営方針の重点>

1 豊かな心の醸成

2 確かな学力の向上

3 健やかな体の育成

	学校経営方針	具体的な内容	肯定的評価				評価	分析結果	改善策	コメント		学校の見解と今後の方向性
			教職員	保護者	児童	平均				評価		
1 豊かな心の醸成	「相手を思いやり、共に認め合う子」の育成を目指す。	よさに着目し、互いのよさを認め励ますことを通じて、思いやりの心を醸成する。	100	72	86	A	各学級での人権教育や思いやりの木の取組、いじめゼロの取組の発表を行った。他の学年の取組を聞くことで、友達の良さに気付いたり、自分にできることを考えるきっかけになっていた。	思いやりの木の取組を各学級で価値付けをしたり、実践につながるよう日常的な指導に生かしたりする。教員への人権研修も引き続き行い、人権意識の向上を図る。	A	思いやりの木の取組はとても良い。人を思いやると同じように自分自身も大切にしてほしい。	引き続き、学校全体で人権教育の取組を推進していく。	
		道徳教育の推進を図る。夢や希望を育み、心の教育の充実をさせるとともに、社会で生きる土台を培う。	94	75	94	88	A	年間計画に従って特別の教科 道徳での指導や各学級の実態に合わせた日々の学級指導の中で道徳教育を進めることができた。	道徳での授業力向上を図るために、小教研道徳部の実践を紹介したり、資料提供をしたりする。	A	「あいさつ音楽劇」は良い企画だった。全ての児童や多くの保護者に直接鑑賞してもらいたかった。	教育活動全体で道徳教育を進め、心の教育を充実させていく。
		特別支援教室や教育相談体制の活用を通じて、特別な支援を要する指導の充実を図る。	100	57	79	B	特別支援教育について保護者の理解を得ることが難しい事例があった。アンケートからもそれが分かる。	児童だけでなく保護者への特別支援理解教育を行うとともに、保護者とよりよい関係を築き、丁寧に学校での児童の実態や課題を保護者に伝え、適正な就学の実現をめざす。	B	保護者の評価が残念。保護者と話せる時間がとりづらい状況の中で、信頼関係を作り理解と協力を求めていくことの苦勞を感じる。	教育活動説明会やパンフレットの配布、学校ホームページ等を活用し保護者への特別支援教育の理解を進める。	
2 確かな学力の向上	自ら考え、共に学び合う子」の育成を目指す。	主体的・対話的で深い学びの充実に向けて、授業改善を図る。	100	76	74	84	B	電子黒板やデジタル教科書等のICT機器をどの教科の授業でも使うようにした。しかし、学校ホームページ等を活用した保護者へ広報活動が十分でなかったことが保護者の数値が低い原因と考えられる。	ICT機器の効果的な活用についてOJTを通して全教員が活用できることで児童の学習意欲の向上と基礎学力の定着を進める。	B	ICT機器を従来教材の代替えでなく効果的な活用を推進し、児童の学力向上に併せ、教職員の業務の質および効率の向上につなげて欲しい。	教員の誰もがICT機器を活用した授業ができ、児童はいつでもICT機器を生かした授業を受けられるように研修と体制づくりを進める。
		考える場・話し合う時間の設定を通じて、考える力・表す力の向上を図る。	100	78	89	89	A	考える場や話し合う場の設定を意図的に多くすることで、児童の考える力や表す力を高めることができた。	各教科、総合、道徳等において、クロームブックのジャムボード等の活用を図り、ICTを活用して考える力や表す力の向上を進める。	A	考え、話し合う場の提供への対応や配慮についての結果は、引き続き児童個々のスキルアップに向けた対応を期待する。	ICT機器の活用を通して「主体的・対話的で深い学び」を追求していく。
		読書貯本通帳・読書月間の取組を通じて、読書好きの子供を増やす。	100	70	68	79	B	梅の郷貯本通帳の取組と朝会での達成者紹介、読書旬間でのおすすめの本紹介などの取組によって読書好きの児童は増えている。貯本通帳が溜まらない児童は、貯本の紙を無くしたり、記入を忘れていたりといった、物の管理での課題が大きい。	学校司書や図書ボランティアを活用し、読み聞かせを行い、本への興味・関心を高め読書活動の推進につなげる。図書購入の予算確保に努める。学校連携推進重点校事業の重点校として読書活動を推進していく。	B	本好きになるきっかけは、小学校の担任の読み聞かせだった。生の声で読み聞かせる大切さを続けて欲しい。	読書のよさを児童に伝え、読書活動を推進していく。
3 健やかな体の育成	「体を鍛え、自他の命を大切にすること」の育成を目指す。	体力の向上と健康の増進を推進し、自分の命は自分で守ろうとする態度の育成を図る。	83	86	84	84	B	体育の授業の導入時、継続して体力を高める運動に取り組んだが、体力向上につなげることが十分にできなかった。持久走については全校で走るのでなく、学級ごと体育の授業内で走った。	委員会活動や代表委員会で外遊びを推奨したり、中休みや昼休みは、基本的に外で遊ぶことを各学級で指導したりする。旬間中は、外で活動することを優先させる。	B	コロナ禍の制約の中での努力は、肯定的評価以上に現れているのではないかと推察できる。	体力テストの結果を分析し、体力向上の取組を推進するとともに、家庭に啓発し協力を求める。
		保健指導の充実を図る。「元気チェックカード」や感染症対策を通じて、健康的な生活習慣づくりを進める。	83	87	94	88	A	評価の数値としては良く、元気チェックカードや歯磨きカレンダーの取組による意識付けはできているが、児童の生活や虫歯減少など目に見える形で成果が表れていない。	ゲームやスマホ等の使い方や生活リズム等について、児童への指導だけでなく、ゲームキャンプや保護者会での担任からの話、保健だより等を通して保護者への啓発を行う。	A	児童の評価が高いが、チェックカードやカレンダーなどの取組が具体的に生活習慣や生活リズムを見つめ直すことができたのではないかと。	家庭と協力して健康的な生活習慣づくりを進めていく。
		日常の安全指導や避難訓練を徹底させ、命を大切にする教育の充実を図る。	100	84	92	A	コロナの感染状況に応じた安全指導・避難訓練を実施することができた。避難訓練の時、命を守る学習であることを意識付けの話をした。	状況に応じた避難訓練を継続して行う。三校合同の引き取り訓練やJアラート対応避難訓練を行っていく。	A	自分の命を守るための基本を身に付けられる様、緊張感をもつての実施をお願いする。	引き続き、安全指導や避難訓練を通して命を大切にする教育を推進する。	
4 その他	「学校や地域を愛する子」の育成を図る。	家庭や地域、関係機関との連携を進め、しっかりとした信頼関係の構築を図る。	100	88	94	A	保護者や地域に教育活動を十分に公開できなかったが、学校ホームページやスクリーンなどを効果的に活用して学校の情報や学習の課題などを家庭に知らせることができた。	引き続き学校ホームページやスクリーン等を活用して、学習や行事の様子や今日の給食を画像とコメントで伝えていく。	A	学校の様子を見たり、学校からの情報に触れたりすることで子供たちのことが分かり、保護者は安心できる。	引き続き開かれた学校を推進していく。	
		教職員が、それぞれの専門性を発揮するとともに、一致協力して教育活動に当たる。	100	73	87	A	複数の学年で一部教科担任制を試みたが、教職員間で情報共有・連携を図り、学校全体で協力して教育活動に当たることができた。	各担任の専門性を学年で生かす教科担任制を各学年で試行していく。引き続き「チーム五小」として学校全体で協力して教育活動に当たる。	A	教職員の方々が共通認識・共通理解のもと心を一つに協力していると感じた。	チーム五小として様々な教育課題に対して組織的に対応していく。	
		行事や授業の連携を通じて、西中学校区や異校種・様々な公共機関との交流を推進する。	100	54	77	B	直接的な交流はできていないが、工夫して交流を行った。それらを保護者に伝えていないことが考えられる。	実施可能な交流を積極的に進め、学校ホームページやスクリーン等で保護者へ発信する。	B	保護者の評価が低くて残念。身近な地域の方々と交流し、子供たちを見守っていけると良い。	異校種交流や様々な交流を行い、その様子や成果と課題を保護者に発信していく。	